



■発行所／(一社)富山県労働者福祉事業協会 〒930-0857 富山市奥田新町8番1号 TEL076-431-0539 FAX076-431-0510 ■発行責任者／藤井光行・編集者／泉 彩子

2026年度(令和8年度)予算要請書を富山県知事へ提出

2026年1月23日(金)16時45分から富山県庁知事応接室において「富山県知事と労働福祉事業団体との意見交換会」を開催した。富山県から新田知事、山室商工労働部長、今井理事・商工労働部次長、赤崎労働政策課長が出席し、労働福祉事業団体から浜守理事長はじめ4名が出席した。

はじめに、浜守理事長から新田知事へ2026年度労働者福祉施策に関する予算要請書を手交した。

浜守理事長から「日頃は富山県におかれましては、当協会の事業活動である勤労者の福祉向上や健康増進について格別のご理解とご支援を賜り、御礼を申し上げます。新田知事におかれましては、ウェルビーイングの向上を中心に添えた富山県成長戦略を掲げ推進をしております。県民が真の幸せを追求し、生き生きと自分らしく暮らし、富山県に魅力を感じる多くの方が富山に集い、共に発展していくことを目指して日々奮闘されていることに深く敬意を表します。さて、取り巻く経営環境は緩やかに回復しているものの物価の高騰など様々なコスト高が企業経営を圧迫している状況であります。物価高騰による支出の増加は、県民生活にも大きな不安をもたらしております。本年も当協会は、多くの社会の構造的な課題がある中ではありますが、勤労者福祉の推進と向上について、富山県、地方自治体、関係団体の皆様のご支援をいただきながら全力で取り組みを進めてまいりたいと考えております。そして本日は、改めて当協会より地域のライフサポート支援事業、生活改善サポート事業などの推進と充実に向け、新田知事に要請書をお渡しいたしました。私たちの思いをご理解いただければと願っております。富山県におかれましては、労働者福祉施策の向上に向けて昨年同様のご検討をいただきたいと思います。」と挨拶した。

続いて藤井専務理事より各団体役員出席者の紹介後、予算要請書について説明を行った。

次に新田知事から「浜守理事長をはじめ労働福祉事業団体の皆様には、働く方々の福祉の向上に力を尽くしておられますことを心から敬意を表したいと思います。今ほど、本県の令和8年度の予算編成に向けての要請をいただきました。さて、富山県では激甚化また頻発化している自然災害、人口減少、デジタル化特にAIの進化、そして社会経済情勢が大きく変化する中で、県政を良い方向にしっかりと導いていく目的で、昨年の12月に新たな富山県総合計画を策定して公表したところでございます。約11ヶ月議論をして策定したものであります。「未来に向けた人づくり」と「新しい社会経済指数の構築」、この2本の柱のもとに、それぞれ政策分野に政策の方向性を示したものであります。さらに、人口減少対策を特出して取り組むことにしております。様々な政策を打つことにより、ウェルビーイング先進地域とやまを目指し、県民の皆様のウェルビーイングの向上を目指していくという政策目標のもとに取り組んでまいりたいと思います。また、中小規模事業者の皆様に目を向けますと、この物価高また人手不足が企業経営を大変に厳しいものにしていていると思います。一方で、生活者の皆さんにはやはりこの物価高、エネルギー高が家計を直撃しているという状況にあり、賃金の引き上げが重要な課題となってくると理解しております。富山県では少しでも企業活動、また県民の生活の下支えをしようということで、今、富山県経済の好循環加速化パッケージというものを進めております。国の経済対策を大いに活用し、11月の県議会で補正予算を組み、一日でも早くお金の良い循環ができるように作戦をいろいろと打っているところでございます。さて、各団体で取り組んでおられます労働者福祉施策について、働き方を含めて県民のウェルビーイングの向上のために大変重要な課題であると認識しております。働く皆さんのウェルビーイングを高めることは、企業の活力の、向上にもつながるということは様々な統計でもあり、企業が元気になり、賃上げを実施され、そして消費拡大につながる、そんな好循環を生み出すものというふうに考えております。本日で要請いただいた内容につきまして、予算編成が佳境に入っておりますが、この中で十分に検討させていただきます。」と回答を受けた。

その後、労働福祉事業団体代表者(北陸労働金庫・こくみん共済coop富山推進部・働く人とこども応援財団とやま・春日温泉観光開発(株))からの活動報告と意見交換を行った。



2026年度(令和8年度)予算要請書を富山市長へ提出

2026年1月20日(火) 16時00からゴルフアートとやま3階「ダイヤモンド」にて「富山市長と労働福祉事業団体との新春懇談会」を開催した。富山市からは、藤井市長、山本商工労働部長、若松商工労働部次長、柵商工労政課長が出席し、労働福祉事業団体から浜守理事長はじめ4名が出席した。

まず、藤井専務から日頃の当協会の事業活動へのご理解、ご支援に対し御礼を伝え、続いて浜守理事長より「日頃より当協会の事業活動である勤労者の福祉向上や健康増進について格別のご理解、ご支援を頂き御礼を申し上げます。藤井市長におかれましては、富山市の近代化に向けた街づくり、とりわけ公共交通を軸としたの拠点集中型のコンパクトな街づくりを推進されています。そしてコンパクトシティ政策の進化として取り組むスマートシティの既存事業を基本に富山市スマートシティ推進ビジョンを策定され、さらには子育て世代が暮らしやすい街づくりに向けての取り組み推進に対して改めて敬意を表します。さて、取り巻く経営環境は緩やかに回復しているものの、物価高騰などの様々なコスト高が企業の経営を圧迫している状況です。また物価の高騰による支出の増加は県民市民生活にも大きな不安をもたらしています。本年も当協会は多くの社会構造的な課題がある中ではありますが、勤労者福祉の推進と向上について、県、そして富山市、各地方自治体、関係団体の皆様のご支援をいただきながら、取り組みを進めてまいりたいと考えております。そして今日は改めて当協会より補助金の要請、地域ライフサポート支援事業、地域福祉促進事業、生活改善サポート事業の推進と充実に向けて、藤井市長に要請書をお渡しいたします。私たちの思いをご理解いただければと願っております。富山市におかれましては、労働者福祉政策の向上に向けて、昨年同様の検討をいただきたいと思います。」と挨拶した。その後、予算要請書を手交した。

続いて、藤井専務理事より出席者の紹介と労働福祉政策の予算要請について説明を行った。

要請を受け藤井市長から「一般社団法人富山県労働者福祉事業協会、浜守理事長をはじめ労働福祉団体の皆様、富山市の発展に対しましてご尽力いただきましてありがとうございます。我が国の経済状況、先行きにつきましては、雇用、所得環境の改善、あるいは各種政策効果が緩やかに効いているというものの、外国資本市場の動向、為替の状況を含めて、社会情勢の変化はすぐ我々の生活や物価に跳ね返るという昨今、予断を許しません。そういった状況下で景気の下振りリスクにならないように、我々の政策ではメインにしています。その状況下で皆様におかれましては、つながり、寄り添い、支え合うという事業運営を基軸とし、連合富山、福祉事業団体とともに、すべての勤労者、そのご家族、そして地域も含め、生活の向上安定を目指して活動をしておられるということをご同慶に堪えない次第であります。富山市では、中小企業等の労働者の身体的負担の軽減に鑑み、ファン付きの暑さ対策のジャケットを購入する助成や、ヒーター付きのベストの購入助成、新たに労働生産性を上げるという職場環境の改善整備の為、設備投資についても助成をしています。一人一人が、快適に働きやすい職場環境を目指し、我々もお手伝いできればと思っています。今ほどご要望をいただきました要請については真摯に受け止め、労働者の皆さんの生活あるいは福祉に直結し非常に重要だと心得ております。今現在令和8年度予算の編成作業中ではありますが、十分意を汲み取り予算に反映してまいりたいと考えております。今後とも、国、県、労働関係団体の皆さんと連携を図りながら、市民生活が豊かなものになり、また幸せを感じていただけるような富山市にしていきたいと思いますので、一層のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。」と回答を受けた。その後、富山市長と労働福祉団体との意見交換を行った。



労働者福祉中部協議会 第48回定期総会 富山県開催

2026年2月25日(水) 第48回定期総会がゴルフアートとやま4階「琥珀の間」にて開催された。藤井副会長の開会挨拶の後、鴨野代議員が議長に選出された。来賓に中央労福協より佐保事務局長、富山労福協より浜守理事長、富山県より山室商工労働部長をお招きした。来賓挨拶の後、議事に入り大会はスムーズな進行のもと終了した。大会終了後、夕食交流会を催し、中部地区の労福協、関係事業団体との交流を深めた。



富山県ライフサポート事業報告

第63回福祉講演会

2025年10月17日（金）15時00分から第63回福祉講演会がボルファートとやま4階「珊瑚の間」で行われ、講師に気象予報士・防災士の木地智美氏をお迎えした。「大雨・猛暑・大雪…～どうなる？富山の天気とこれからの暮らし～」の題目で、富山県退職者連合の会員など約70名の参加があり、日常生活に欠かせない降水確率はどういった算出方法を用いているか、天気予報はどのように出されているか、雲はどういう原理で発生するかなど天気の仕組みや気象に関する豆知識を実験を交えてお話された。何気なく見ていた天気予報をより深く理解するきっかけとなり、とても有意義な時間となった。



親子でドライブ・イン・シアター&フードドライブ2025

2025年10月25日（土）18時30からテクノホール西館駐車場にて「親子でドライブ・イン・シアター 2025」&フードドライブを富山県勤労者互助会と共催で開催した。

コロナ禍の中でも親子で楽しめる企画をと始まった催しだが、毎年多くの親子連れの参加があり、フードドライブの協力も見込めることから本年も開催した。

参加台数は52台でおおよそ160名が車内で上映作品「STUART LITTLE/スチュアート・リトル」を楽しんだ。

フードドライブでは、賛同された方々から100品目・115品（段ボール2箱分）の食品が集まり、今年も富山県母子寡婦福祉連合会へ届けた。物価高騰の為、生活に困っている方々がたくさんいらっしゃるので大変助かりますと、感謝を伝えられた。

また、こども食堂への支援活動の一環で、ドライブ・イン・シアターで余ったお菓子をフードパントリーを通じてこども食堂へ提供した。今回はボルファートとやままで取りに来てもらい、こども食堂を運営されている方々から直接話を聞くことができた。何を求めているのか、どう支援していけばいいか貴重な意見を沢山いただくことができ、今後の支援の参考となった。



第46回親子スキー・スノーボードの集い

毎年好評の第46回親子スキー・スノーボードの集いが2026年1月24日（土）（第1回）、2026年2月7日（土）（第2回）、あわすのスキー場にて開催された。

天候には恵まれなかったが、多くの参加があり第1回では223名、第2回では179名の参加があった。

開会式では藤井専務理事の挨拶、インストラクターからの注意事項の説明があり、開会式終了後はそれぞれのスクールごとに分かれ、ケガの無いよう準備体操をし、注意点等について聞いていた。その後はレベルに合わせたゲレンデに移動し、インストラクターの指示のもとスキー・スノーボードを楽しんでいた。また、フリー滑走を楽しんでいる方々も居り、思い思いにスキーやスノーボードを楽しむ姿が見られた。

悪天候の為、早めに帰宅される方もいたが、閉会後も滑走を楽しむ親子連れの姿がたくさん見受けられた。小さなお子さんの「楽しかった」、親子連れの「また来年も来ます」の言葉がとてもスタッフへの励みになった。



2025健康づくりセミナー

2026年1月28日（水）13時からゴルフアートとやま4階「翡翠の間」にて「2025健康づくりセミナー」を開催した。12名の参加があった。今年も「とやま健幸応援プロジェクト 健康づくり研修支援事業」から（株）エムール 睡眠・生活研究所所長の神川康子先生を講師としてお迎えした。

「働く方の健康を守る睡眠・生活習慣の工夫」をテーマに研修を受けた。睡眠習慣を整えることにより、快適な眠りがもたらす利点はたくさんある。生活リズムが整い、自律神経のバランスがとれて食生活や運動習慣さらにはコミュニケーション能力も改善・向上して人間関係が良くなり、心身の健康度がアップする。事例として、毎日同じ時間に起きることや、起きたらカーテンを開けるなどいくつか紹介された。睡眠は命の総合メンテナンスをしてくれるので、今後も元気に過ごすには睡眠習慣を見直していくことが大切であると、お話された。

